

# がん拠点病院、急性期病院として

# 手術治療のさらなる クオリティアップへ!

耳原総合病院  
第23回地域医療連携をすすめる会

9月28日、「第23回地域医療連携をすすめる会」を開催しました。本会は地域の医療機関の皆様と連携を深める場として開催し、今回は地域の医療機関から65人（うち医師40人）に参加していただきました。



堺市医師会副会長佐々木徳久先生よりご挨拶いただきました

講演会では当院の診療の取り組みとして5演題を報告し

ました。

心臓血管外科の礼部長からは、経験と実績が十分な心臓血管外科医師3人体制に強化されたこと、手術映像を交えながら心拍動下手術など患者負担が少なく、クオリティが高い手術を実践していることを語りました。

続いて、呼吸器外科の佐藤部長より、患者負担の少ない胸腔鏡下手術でいかにクオリティの高い肺がん手術を行うかの工夫とともに、患者さんが納得して手術を受けられるように力をつくしていることを紹介しました。

泌尿器科の田原部長からは、前立腺がんの新しい生検方法（先進医療）が紹介されました。新しい生検方法ではがんを正確に診断する確率が大きく上がり、確定診断までの時間が短縮され、より早く治療に移れる利点があること

を報告しました。

放射線科技師の向井主任からは、新たに導入した大腸3D-CTの検査内容について報告。従来、大腸がん検診で陽性になった場合、大腸内視鏡検査がスタンダードでしたが、検査時の痛みなどで内視鏡検査を避けたい方や、大量の前置薬を飲むことに拒否感がある方にとってはハードルが高い検査となっていました。

大腸3D-CTでは、内視鏡に比べ検査時の負担が少なく、大腸の仮想画像を作成することが可能となりました。今まであきらめていた方にこの検査を受けてもらい、大腸がんの早期発見、治療に結びつけたいと熱く語りました。



最後に奥村病院長より

最後に奥村病院長より

がん患者・家族サロン

## 「ラ・パンジィ」特別企画

雪待月のてしごと ～リースづくりとおしゃべり～  
日時：11月30日(土曜日) 13:30～15:30 受付13時より  
場所：みみはらホール  
申込み・参加費不要  
お問い合わせ：耳原総合病院 がん支援センター  
がん相談支援センター  
担当者まで 072-241-0501

## 健康食品やサプリメント 摂りすぎていませんか？

サプリメントを安全に利用するために

- ◆正しく理解をしましょう。
- ◆利用前によく確認しましょう。
- ◆医療機関へ相談しましょう。

健康維持の基本は、「栄養バランスのとれた食事、適度な運動、十分な休養」です。サプリメントは、あくまでも食事を補う食品であり病気の予防や治療を目的に利用するものではありません。食生活は主食・主菜・副菜を基本に食事のバランスに気を付けましょう。

### その1 とりすぎに注意！～過剰摂取の事例～

(図)東京都健康安全研究センター提供：あなたは大丈夫？健康食品利用中の体の不調(リーフレット)より引用

素材または製品	症状	原因
ビタミンA	【短期間の過剰摂取】 吐き気・頭痛・めまい・目のかすみ・運動失調 【長期間の過剰摂取】 中枢神経系への影響・肝臓の異常・骨や皮膚の変化	ビタミンAは脂溶性のため、とりすぎると体内に蓄積されます(成人の耐容上限量:1日2700μgRE)。また、妊娠前3ヶ月から妊娠3ヶ月までの間に過剰摂取すると、新生児の先天異常の割合が上昇したとの報告もあります。
アマメシバ加工品 (2003年販売禁止)	閉塞性細気管支炎 被害報告 1994～2000年(台湾) 2003年(日本)	海外では食材として食べられていたが、粉末や錠剤等の形態が、大量かつ長期の過剰摂取につながり、被害に関連したと考えられています。

★解説★ 特定の成分をとりすぎると健康に影響がでる可能性もあります。製品に表示されている摂取目安量の範囲で利用しましょう。

### その2 アレルギー症状に注意！～アレルギーとの関連が疑われる事例～

ある女性は、グルコサミン、コンドロイチンなど複数の原材料を含む健康食品を店舗で購入しました。利用方法どおりに摂取したところ、皮膚にかゆみと発赤が現れたため、医療機関を受診しました。

★解説★ グルコサミンなどにはアレルギー原因物質である「えび・かに」が原料の製品があります。アレルギーをお持ちの方は、製品の表示でアレルギー原因物質の有無を確認しましょう。

### その3 薬を服用している人は注意！～薬の効能に影響を及ぼす事例～

健康食品	医薬品	影響
ビタミンKを多く含む健康食品 (青汁、クロレラなど)	ワルファリン (血液が固まるのを防ぐ薬)	薬の効果が弱まる
カルシウム、マグネシウムを多く含む健康食品	一部の抗生物質	薬の効果が弱まる

★解説★ 薬によっては、健康食品と一緒に利用すると、薬の効果が強まったり、弱まったりするなど治療の妨げになることがあります。薬を服用している方は、必ず医師や薬剤師に相談しましょう。



シリーズ④

テレビや雑誌、インターネット等で、個人の使用体験などが掲載され、あなたも疾病の予防や治療に効果があるかのような宣伝が大々的に行われています。しかしこれらの製品には、医薬品と違って成分の含有量や品質に規制や基準はなく、中には無承認無許可の医薬品成分が含まれた製品やアレルギーや肝障害をおこす成分が含まれた製品もあり健康被害もしばしば報告されていることに注意が必要です。製品自体に問題

がある場合はもちろんですが、過量摂取や利用者の体質に合わない場合(アレルギーなど)、また薬と併用した場合には健康被害を受ける可能性があります。医療機関を受診されるときに、常用しているサプリメントや健康補助食品などがある場合は、自分から申し出るようにしましょう。また、医療者側が投薬時に「薬以外にも飲んでいるものはありますか？」と声をかけることが重要になってきます。

健康食品ブームは1986年頃から始まりました。高齢化・社会と生活習慣病の増加によって健康への関心が高まるなか、食品のように安全で薬のように効くというイメージがあります。みなさんも使用されたことがあるのではないのでしょうか？健康食品とサプリメントに明確な定義はありませんが、一般的には健康食品とは「健康の保持増進に資すると称される食品全般」のことをいい、サプリメントとは、食事を補い健康の維持・増進に役立つ「食品」のうち、特定成分を効率的に摂取できる錠剤やカプセル状の製品をいいます。「食品」なんだから、いくら摂取しても安全...というわけではありません。上手に使用すれば疲労回復などに有効である一方、間違った使い方をすると体調を崩してしまうこともあり注意が必要です。